

アンケート実施時期：2002年1月末～5月末

アンケート対象者

- A群：保育園・幼稚園の先生
- B群：小学校の先生（おもに低学年＝1～3年生の担任）
- C群：幼児や小学生の保護者
- C'群：心身にハンディのある子どもの保護者や指導者
- D群：小学生
- D'群：心身にハンディのある子ども

アンケートの配布方法

- 1：全国に居住する本会会員と非会員計約50名の手を通して、各地の保育・教育施設等の関係者や子どもの保護者、小学生などに手渡しや郵送等で配布。
 - 2：いくつかの市区の施設を無作為に選んで郵送（A、B）。
 - 3：会のホームページでアンケートを公開し、回答を募集。
 - 4：第47回「子どもを守る文化会議」にて参加者に配布。
- 以上の方法で配布しましたが、集まった回答の約8割は1の方法によるものでした。

各アンケートの回答者数とおもな居住地

上記のような配布方法に拠ったため、回答者の居住地は全国に分散しています。特定地域や施設に偏らない分、全国的な傾向を伝えるものとなっています。

市区郡の詳細はp71に掲載。

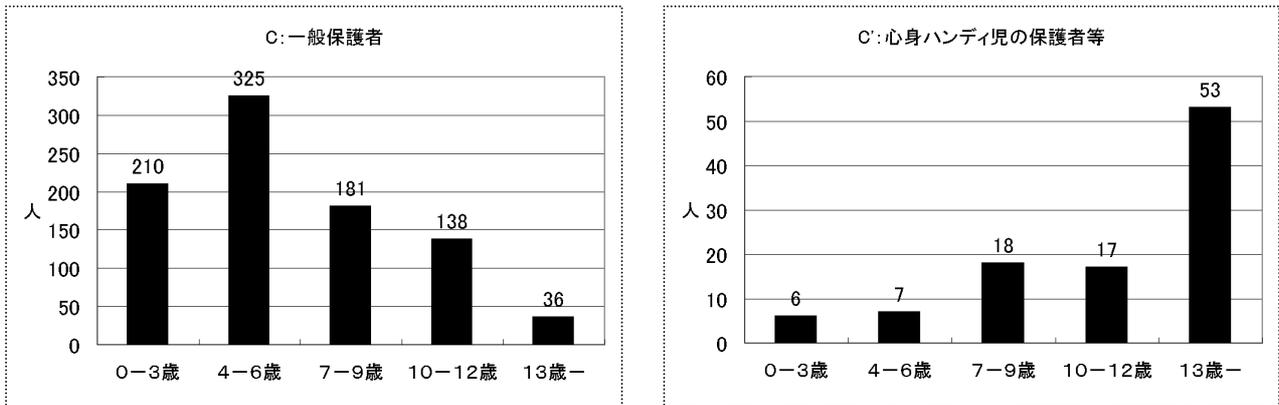
アンケート対象	回答者数	おもな居住地
A群 保育園・幼稚園の先生	207	東京都38、三重県35、鳥取県27、大阪府16、埼玉県16、神奈川県15、高知県12、北海道11、岐阜県6、茨城県5、愛知県5、山形県3、千葉県2、奈良県1、福岡県1、熊本県1、不明13
B群 小学校の先生	133	北海道58、東京都33、神奈川県5、埼玉県5、兵庫県5、三重県3、大阪府3、奈良県2、福岡県2、栃木県1、熊本県1、不明15
C群 幼児や小学生の保護者	532	東京都128、高知県91、埼玉県85、三重県43、大阪府31、茨城県26、北海道23、岐阜県19、千葉県15、熊本県8、神奈川県7、岡山県7、兵庫県6、鳥取県6、山形県4、奈良県4、愛知県3、福岡県3、山梨県2、静岡県1、京都府1、広島県1、不明18
C'群 心身にハンディのある子どもの保護者や指導者	89	新潟県50、岡山県10、東京都7、大阪府6、山形県5、兵庫県5、奈良県2、鳥取県1、不明3
D群 小学生	437	北海道292、東京都44、大阪府40、千葉県15、熊本県7、兵庫県6、岡山県5、埼玉県4、神奈川県4、鳥取県4、愛知県3、福岡県3、奈良県2、三重県2、広島県1、不明5
D'群 心身にハンディのある子ども	23	新潟県14、山形県5、東京都2、山梨県1、奈良県1
合計回答者数	1421	

- A群 : 保育園・幼稚園の先生(207名)
 B群 : 小学校の先生(133名) おもに低学年(1~3年生)の担任
 C群 : 幼児や小学生の保護者(略称:一般保護者)(532名)
 C'群 : 心身にハンディのある子どもの保護者や指導者(略称:心身ハンディ児の保護者等)(89名)
 D群 : 小学生(437名)
 D'群 : 心身にハンディのある子ども(略称:心身ハンディ児)(23名)

一般保護者(C群)と心身ハンディ児の保護者等(C'群)の子どもの年齢

保護者の子どもの年齢は、一般保護者(C群)では4~6歳が約6割、0~3歳が4割、7~9歳が3.5割である。歩行者事故に遭いやすい幼児から小学校低学年頃の子どもの多い。心身ハンディ児の保護者等(C'群)の場合は13歳以上が半数を占めている。やや年齢は高いが、心身ハンディ児全般の様子を知る一助となるかと思う。

保護者(C群・C'群)の子どもの年齢

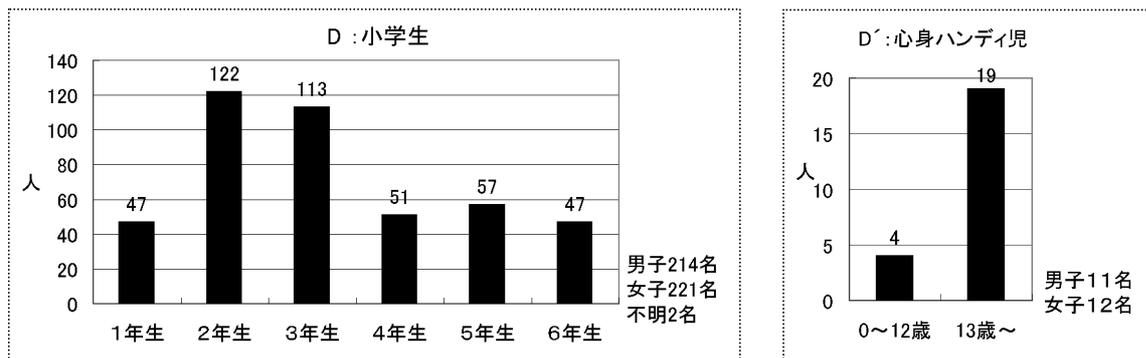


学年での回答は便宜上、小学1年生=7歳とみなして、年齢に換算して集計。
 子どもが複数いる人もいるため、合計数は回答者数より若干多い。

小学生(D群)と心身ハンディ児(D'群)の学年(年齢)

小学生(D群)の学年は、小学1~3年生までが65%で、低学年の割合が多い。心身ハンディ児(D'群)は23名と少なく、諸事情により年齢は高いが、参考として回答を分けた。

子ども(D群・D'群)の学年(年齢)



アンケートの設問概要

設問は、対象グループにより以下のように若干異なります。

設問の概要

（設問の後ろのページは、回答報告ページ。全文は p 6 8 に掲載）

設問	A 群(保育園・幼稚園の先生) B 群(小学校の先生)	C 群(保護者) C' 群(心身にハンディある子どもの保護者・指導者)
1	施設周辺の交通量 (p10)	子どもの年齢または学年 (記入式)(p8)
2	幹線道路に面しているかどうか (p10)	子どもがよく遊ぶ場所 (p12)
3	保育・教育活動中に外に出る回数 (p11)	戸外の遊び場の家からの距離 (p14)
4	外出目的 (p11)	家周辺や通園(学)路で感じるクルマの危険(p16)
5	外出時に感じるクルマの危険度 (p16)	
6	歩く空間で感じる具体的な問題 (p20)	
7	横断歩道で感じる具体的な問題 (p22)	
8	そのほかに感じる具体的な問題 (p24)	
9	実際の交通事故体験や危険体験 (記入式)(p30)	
10	歩行中の子どもの行動傾向 (p38)	
11	クルマ社会と子どもの心身発達との関連 (p42)	
12	道路対策で望むこと (p53)	
13	車の使い方で望む対策 (p54)	
14	A : 園児の通園手段 (p46) B : 教職員の通勤手段 (p47)	子どものためのマイカーの利用回数 (p48)
15	A : 通園手段についての園の方針 (p46) B : 通勤手段についての学校方針 (p47)	マイカーを使う場合の使用目的 (p49)
16	クルマ社会と子どもについて(記入式)(p61)	マイカーを使う場合の理由 (p49)
17		マイカーを使わない人の使わない理由 (p50)
18		クルマ社会と子どもについて(記入式)(p61)

設問	D 群(小学生) D' 群(心身にハンディのある子ども)
1	自分の学年または年齢 (記入式)(p8)
2	性別 (p8)
3	居住地と学校名 (記入式)(p7)
4	遊びや習い事での移動手段 (p15)
5	登下校など外出時にクルマの危険がどれくらいあるか (p17)
6	歩行中や自転車利用中に感じる交通上の危険 (p21)
7	そのほかクルマに対して感じること (p25)
8	
9	実際の交通事故体験や危険体験 (記入式)(p30)
10	よく遊ぶ場所 (p13)
11	外で望む遊び場 (p57)
12	クルマの来ない道があったら何をして遊びたいか (記入式)(p58)
13	子どもだけで電車やバスに乗って出かけた体験 (Dのみ)(p51)
14	クルマが増えることによるリスクへの認識度 (p60)

回答は、(記入式)と付記したもの以外は、選択肢を示して選択方式としました。